

MENU

SEARCH

INDEX

DETAIL

1/1



JAPANESE PATENT OFFICE

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number: 10069417

(43)Date of publication of application: 10.03.1998

(51)Int.Cl.

G06F 12/00  
G06F 11/00

(21)Application number: 08227250

(22)Date of filing: 28.08.1996

(71)Applicant:

(72)Inventor:

NEC SOFTWARE LTD

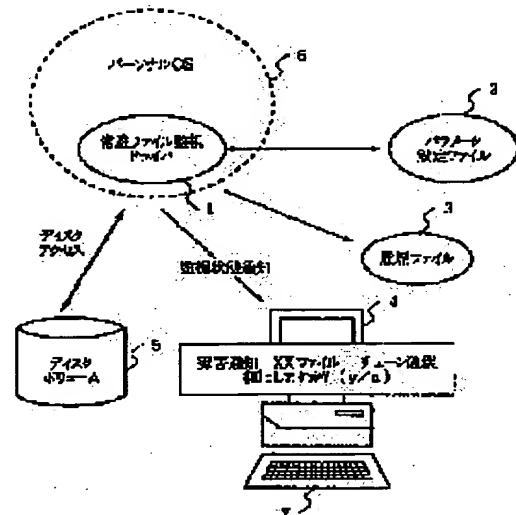
HATAYAMA KAZUO

## (54) RESIDENT TYPE FILE MONITORING METHOD

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To instantaneously recover a file against its failure.

SOLUTION: A personal OS(operation system) 6 always incorporates a driver 1. The setting of the driver 1 is written in a parameter setting file 2, and the operation mode is changed by the change of the parameter value. Thus, a disk volume 5 is always monitored. When an error is detected, the error state is displayed on a display 4. Then a faulty file is recovered in accordance with the error processing guide and the recovery history is outputted to a history file 3.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.08.1996  
[Date of sending the examiner's decision of rejection] 02.11.1999  
[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted to registration]  
[Date of final disposal for application]  
[Patent number]  
[Date of registration]  
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]  
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]  
[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998 Japanese Patent Office

**MENU**

**SEARCH**

**INDEX**

**DETAIL**

(19)日本国特許庁 (JP)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-69417

(43)公開日 平成10年(1998)3月10日

|  |                    |  |                          |
|--|--------------------|--|--------------------------|
| (51) Int.Cl. <sup>8</sup><br>G 06 F 12/00<br>11/00 | 識別記号<br>531<br>330 | 府内整理番号<br>F I<br>G 06 F 12/00<br>11/00 | 技術表示箇所<br>531 R<br>330 B |
|--|--------------------|--|--------------------------|

審査請求 有 請求項の数3 OL (全3頁)

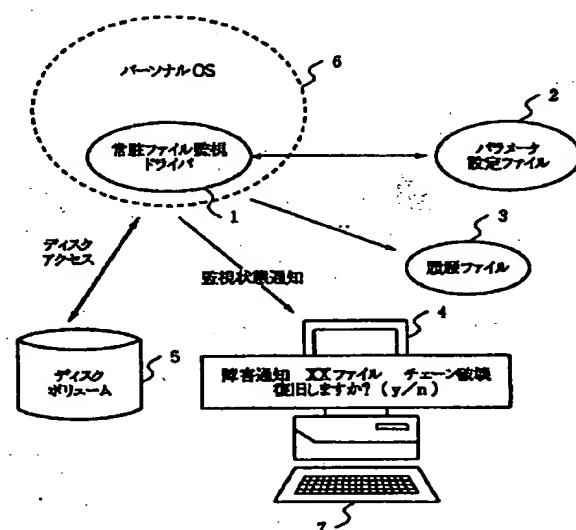
|                            |   |
|----------------------------|---|
| (21)出願番号<br>特願平8-227250    | (71)出願人<br>000232092<br>日本電気ソフトウェア株式会社<br>東京都江東区新木場一丁目18番6号 |
| (22)出願日<br>平成8年(1996)8月28日 | (72)発明者<br>畠山 和雄<br>東京都江東区新木場一丁目18番6号 日本<br>電気ソフトウェア株式会社内   |
|                            | (74)代理人<br>弁理士 京本 直樹 (外2名)                                  |

(54)【発明の名称】常駐型ファイル監視方法

## (57)【要約】

【課題】 ファイル破壊を監視する場合、他のプログラムがアクセスされてないときとかバッチ処理的にしか監視できない。

【解決手段】 パーソナルOS 6 の中に常時ドライバ1を組み込み、そのドライバに対して設定は、パラメータ設定ファイル2に書き込まれていて、パラメータ値を変えることにより動作モードを変更し、ディスクボリューム5を常時監視し、エラーが発生したらディスプレイ4に状態を表示し、その処理ガイドに従いファイルの復旧を行い、その履歴を履歴ファイル3上に出力する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 オペレーティングシステムにファイル監視プログラムを常駐させ、ファイル破壊が起きてないか監視し、ファイル破壊が起きた場合、破壊したファイルを復旧させることを特徴とする常駐型ファイル監視方法。

【請求項2】 オペレーティングシステムにファイル監視プログラムを常駐させ、ディスクアクセスがないタイミングでファイルをサイクリック的にファイル破壊が起きてないか監視し、ファイル破壊があるときエラーメッセージと処理ガイドをディスプレイに表示して復旧させることを特徴とする常駐型ファイル監視方法。

【請求項3】 ファイル破壊が起きたときファイル監視プログラムのパラメータ設定ファイルのパラメータによりファイルを復旧させることを特徴とする請求項1記載の常駐型ファイル監視方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は常駐型ファイル監視方法に関し、特にパーソナルオペレーティングシステム(OS)に於ける常駐型ファイル監視方法に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来パーソナルOS上では、ファイル状態を監視する方法として、パッチ的にユーティリティを実行してチェックする方法、または時間指定による起動が行なわれている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 第1の問題点は、従来の技術においてファイルが破壊されていても、復旧ユーティリティをパッチ的に実行して監視するしか方法がなかった。

【0004】 その理由は、常駐型プログラムとして組み込めなかったからである。

【0005】 第2の問題点は、従来の技術において、ファイル状態を監視する時、1つの論理ボリュームに対して連続的にしか実行できなかった。かつ、他のプログラムがディスクアクセスされていない状態でしか実行できなかった。

【0006】 その理由は、他のプログラムの処理を妨げるからである。

【0007】 本発明の目的は、ファイルに対する復旧を、障害が発生したら瞬時にファイルを復旧する様にする。

## 【0008】

【課題を解決するための手段】 本発明の常駐型ファイル監視方法は、オペレーティングシステムにファイル監視プログラムを常駐させ、ディスクアクセスがないタイミングでファイルをサイクリック的にファイル破壊が起きてないか監視し、ファイル破壊があるときエラーメッセージと処理ガイドをディスプレイに表示して復旧させる

ようにあるいはファイル破壊が起きたときファイル監視プログラムのパラメータ設定ファイルのパラメータによりファイルを復旧させるよう構成されている。

【0009】 【作用】 ファイルの監視を常時行っている05 為、他のジョブを止めてパッチ的に起動する必要がない。

## 【0010】

【発明の実施の形態】 次に、本発明の実施の形態について図面を参照して説明する。

10 【0011】 図1は本発明の常駐型ファイル監視方法の一実施の形態を示すブロック図である。

【0012】 本発明の一実施の形態は、図1に示すように、パーソナルOS6の中に常駐ドライバ1を組み込む。そのドライバに対しての設定は、パラメータ設定ファイル2に書き込まれていて、パラメータ値を変えることにより動作モードを変更できる。

【0013】 ディスクボリューム5を常時監視し、エラーが発生したらディスプレイ4に状態を表示する。

20 【0014】 その処理ガイドに従いファイルの復旧を行う。その履歴を履歴ファイル3上に出力する。

【0015】 次に、本発明の第1の実施の形態の動作について、図1を参照して詳細に説明する。

【0016】 常駐ファイル監視ドライバ1が、ディスクボリューム5をチェックしファイルに異常が発生すると25 ディスプレイ4に状態を表示する。オペレータはその対処方法をキーボード7から入力し障害が発生したファイルに対して処理を行う。処理を終了したらその履歴を履歴ファイル3に残しておく。

【0017】 なお動作(チェック)はCPU、ディスク30 のアクセスが少ない時に行い、他のジョブの性能劣化を避ける。

【0018】 次に、本発明の第2の実施の形態について、図1を参照して詳細に説明する。

【0019】 障害時、ガイドメッセージをディスプレイ35 4に表示させず、パラメータ設定ファイル2のパラメータにより自動的に復旧させることもできる。

## 【0020】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明の常駐型ファイル監視方法は、第1の効果として、ファイル障害を40 早急に発見、復旧することができる。

【0021】 その理由は、常駐型プログラムとして組み込まれているからである。

【0022】 第2の効果は、他のディスクアクセスを行うプログラムを停止させないで、ファイル状態監視を行うことができる。

【0023】 その理由は、常駐プログラム(ドライバ)は、CPUとディスクが空いている時に実行する仕組みになっているからである。

## 【図面の簡単な説明】

50 【図1】 本発明の常駐型ファイル監視方法の一実施の形

態を示すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 常駐ファイル監視ドライバ
- 2 パラメータ設定ファイル
- 3 履歴ファイル

- 4 ディスプレイ
- 5 ディスクボリューム
- 6 パーソナルOS
- 7 キーボード

05

【図1】

